



～社訓＊誠意～

社長室だより



2018年8月末号

あまり電車に乗る事が無いのだが、先日電車に乗った時に廻りを見渡すとほとんどの乗客が携帯電話に目を落とし皆下を向いていた。「時代だな～」と思って眺めていた。するとこの暑いのに和服を着た女性が席を立ち下車する際にハンカチを2枚落とし気がつかずにそのまま電車を降りたので少し離れて立っていた私は傍の人が誰も声をかけないので大きな声で「すみません！」と落としたハンカチを拾いあげ発車ベルが鳴りドアが閉まりかけた寸前に「ハンカチ落とししましたよ！」とその女性に渡したのです。そして車内に振り向くと乗客は一同私の顔を一瞬チラミして又スマホに目を落としました。不気味に感じる静けさ。何故か私が悪い事でもしたかのような気分を味わいました。「えつ？何故？どうして隣に座っていて落ちたハンカチを観たのに何も言わなかったの？この暑い中、汗を拭くに無いと和服だもの。シミ抜き大変だし、100均で買えるかもだけど、大切な方から頂いたお気に入りだったりしたら？自分だったら悔しいじゃない？」又、有る日デパートのトイレに携帯電話の忘れ物を発見。トイレから出て呼びかけたが誰も応答せず。その携帯が鳴った。店員に渡そうと携帯をわざと掲げて周囲に見せるように（自分は泥棒では無いですよをアピールするつもりで）トイレルームから出て直ぐに持ち主が寄ってきて渡す事が出来、御礼も言われた。これは良い例で、悲しかったのはやはり電車で幼稚園児を連れた母子3～4組のグループが子供を靴を履かせたままイスに座らせ、靴のまま椅子の上に立ち外を見たりはしゃいでいるのを注意もせず靴を脱がせもせずくっちゃべっているの「あの～夏で白い服を着た方が後から座って汚れるかもしれませんし靴は脱がせた方がよろしいかと。」と見かねて発言したら「はい」は言われた様な気がしたが、ほぼ無言で子供の靴を脱がせ、子供からは逆に何度も睨まれた。かつて町中には他人だろうが自分の子だろうが悪い事は悪いと叱ってくれる大人がいたし、困っている人を黙って見てられない人達が大勢いた気がする。前回も書いたようにネット、スマホの世界に没頭し人と人との関わり方が疎遠になってきた様な誠に寂しい時代になった気がする。今年の十五夜は9月20日。古くからの日本の風習を楽しみその意味を改めて（厳しい季節を乗り越え実りの秋を迎えられた事への感謝。今後の豊作を願い）思い起こし、是非夜空を見上げて大切な人と語り合ってほしいです。

HAPPY
BIRTHDAY

9月にお誕生日を迎える方



倉持 敦 9月14日生（平塚・菱華便） 油元 克 9月21日生（平塚 日通便）